

日本郵政グループ労働組合 ユースネットワーク 御中

2018 年度
ミャンマー（ビルマ）難民キャンプにおける
コミュニティ図書館を通じたノンフォーマル教育支援事業
完了報告書



図書館を利用する子どもたち
〈メラ難民キャンプ第3図書館にて〉

難民キャンプの子どもたちに
絵本を通して
希望と未来を

2019年3月15日

I. 事業概要

1. 事業名称：ミャンマー（ビルマ）難民キャンプにおけるコミュニティ図書館を通じた
ノンフォーマル教育支援事業
2. 協力機関：難民キャンプ委員会、カレン難民委員会教育部会、キャンプ教育部会事務所、
図書館委員会、図書館青年ボランティア
3. ご支援者様名：日本郵政グループ労働組合 ユースネットワーク様
4. ご支援金額：193,314 円
5. 実施団体：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
6. 事業実施対象地：タイ国境7ヵ所のミャンマー（ビルマ）難民キャンプ
7. 事業実施期間：2018年1月～12月末日
8. 受益者：図書館利用者 延べ409,448人
(子ども：255,183人、18歳以上の大人：154,265人。2018年の年間利用者数)
9. 事業責任者：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

【東京事務所】

事務局長	関 尚士
事業サポート課課長	山本 英里
事業サポート課担当者	栗原 陽紀

【ミャンマー（ビルマ）難民事業事務所】

所長	八木沢 克昌
所長代行	ジラポーン・ラウィルン
事業マネージャー	山内 乃絵
図書館活動調整員	プリダラート・タマタサナディー

II. 事業対象地の概況

1984年に公式に設立された、タイ国境にある9カ所のミャンマー（ビルマ）難民キャンプには、現在約9万7千人が暮らしています（UNHCR Thailand-Myanmar Cross Border Portal, 2018）。30年以上続くキャンプですが、2012年にミャンマー政府とカレン民族同盟との間で行われた停戦合意が結ばれ、以降難民の帰還に向けた動きが始まりました。2016年には、タイ政府・ミャンマー政府の合意の下で、初めての帰還プログラムが行われ、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の支援の下、71人が帰還しました。2017年には、第2陣の帰還が予定されていましたが、ミャンマー政府からの許可が下りず延期されました。その後、2018年5月に27世帯93人が帰還をしました。次回は2019年1月時点で86世帯322人が計画されていますが、実際の帰還には至っていません。タイ政府は今後、年に2回このプログラムでの帰還を実施したいとの姿勢を示していますが、ミャンマー政府を含めた関係者との調整に時間を要しています。

また、難民の中でも帰還を望む人は多くありません。その理由は、帰還先の安全性、土地や家の確保、生計手段、医療や教育へのアクセスが不透明であることなどです。UNHCRは、難民キャンプ内に「帰還センター」を設置し、帰還のプロセスやミャンマー本国にかかわる情報をキャンプ住民に共有する試みを実施しています。しかし、ミャンマー本国側に親戚がいる場合を除いて、本国での暮らしを描ける人は少ない状況です。

こうした帰還の動きの一方、難民キャンプ内への支援は年々減少し、住民の暮らしをより厳しいものにしていきます。2018年には、食糧配給など多くを担ってきたある国際NGOの事業縮小が決まりました。このことが原因で、これまで彼らが支援してきた保育所への昼食提供と生計向上事業が終了することになりました。加えて、キャンプ内で支援を行う団体が構成される、難民キャンプ運営委員会の予算の削減も決まりました。今後のキャンプ内の運営、安全管理が不安視されています。

教育分野でも、支援の減少が教育の質に大きな影響を与えています。教員数、教育関係者の給与、学習教材や建物資材に加えて、高等教育や教員研修への予算が削減されています。教員研修については、これまで担ってきた海外の支援団体が撤退を決定したため、カレン民族の運営する教育支援団体が引き継ぐことになりました。しかし、同団体の経済的、人的資源も限られているため、彼らへの負担が年々増えている状況です。こういったキャンプ内の状況から、住民のストレスや不安が高まってきており、自殺者の増加や若者の非行など、社会不安が様々な形で現れています。

上記の通り、帰還先の情報が見えず将来の見通しが立たない中、難民キャンプ内の支援は減少し、住民の生活基盤が危ぶまれています。住民全員が尊厳を持って帰還する日まで、難民キャンプへの継続した支援が必要です。シャンティでは、引き続き本を読む機会を住民に提供することで、難民の人々に寄り添った支援を行います。



タイ・ミャンマー（ビルマ）政府の合意に基づく帰還の第2陣（両国を結ぶ友好橋にて）

Ⅲ. ご支援いただいた事業のご報告

1. コミュニティ図書館の概要

皆様には昨年同様、メラ難民キャンプ第3図書館運営のご支援を頂きました。メラ難民キャンプはタイ王国ターク県ターソンヤン郡にあり、タイ・ミャンマー（ビルマ）国境から約10kmの位置にあります。



同難民キャンプは1984年に設立されました。国境にある9ヶ所の難民キャンプの中で、最も古く、大きい規模の難民キャンプになり、2018年12月時点で35,666人が生活をしています（UNHCR Thailand-Myanmar Cross Border Portal）。メラ難民キャンプには6館の図書館があり、第3図書館は保育所と小学校の近くに位置しているため、子どもたちを中心に住民が図書を利用しています。青年ボランティアの活動が積極的に行われており、人形劇などを通した子どもたちへの読書推進運動に励んでいます。



メラ難民キャンプ第3図書館外観



メラ難民キャンプの様子

2. 図書館活動内容

①日々の図書館活動

メラ難民キャンプ第3図書館では、図書館活動を引き続き行っています。具体的には、図書の貸し出しや図書館員が1日2回行うおはなし会などを指しています。おはなし会では、絵本、紙芝居、パネルシアター、エプロンシアターなどを利用したおはなしの他、歌、ゲーム、塗り絵、折り紙など様々な活動を実施しています。これらの活動は子どもたちにも大変人気です。また、大人の情報収集のために、新聞、雑誌、学習参考書、小説などを図書館に配架しました。2018年は合計で、5,700冊以上の図書が貸し出されました。

②研修会の実施

メラ難民キャンプで、6月に学校教員を対象とした2日間の研修を実施し、合計で36人が参加しました。1日目は保育所・小学校教員を対象に、2日目は中・高等学校、ポスト高等学校の教員を対象に開催しました。研修では、学校で活用できる様々な読み聞かせ手法を紹介し、移動図書館の利用方法や学校での図書管理方法を紹介しました。研修後のアンケートには、学校で利用したい本の希望や、同様の研修をまた受けたいといった意見がよせられました。

7月には、図書館青年ボランティアを対象とした読書推進研修を実施しました。メラ難民キャンプでは合計で42人の青年ボランティアが参加し、研修後に彼ら自身が行う読書推進活動に向け、知識や技術を習得しました。人形劇の演じ方、絵本を使った読み聞かせの手法、折り紙やゲームなど、実践を通して学びました。研修後青年ボランティア達は、難民キャンプ内で読書推進活動を行っています。

10月に図書館員を対象とした研修を実施し、合計で13人が参加しました。図書館員の中には採用されたばかりの新人もいるため、図書館の役割などを改めて伝え、マニュアルに基づいて図書の管理方法を教授しました。また、図書の日々の活動から、子どもたちと一緒に新しい歌やゲームを習得したいという要望が出ていたため、そちらも研修を通して伝えました。図書館員達は、研修で得た知識や技術を日々の活動に活かしています。

③会議・モニタリングの実施

難民キャンプ教育部会、難民キャンプ図書館委員会、教育部会の図書館担当、図書館員、学校教員、青年ボランティアなどの図書館関係者と共に、年に5回（1月、3月、6月、9月、12月）会議を実施しました。メラ難民キャンプでは、各月20～50人の参加がありました。会議では、スケジュールや活動の成果を主に確認し、活動の課題や改善案について議論しています。会議の中で、参加者から様々な提案があり、具体的には現在図書館活動は子どもを対象に行っていますが、今後は青年や大人向けの活動も加えたらどうか、といった提案がありました。

また、毎月当会職員によるモニタリングを実施しています。6館の図書館の内、いくつかの図書館では本国帰還や家庭の事情による図書館員の交代が続いているため、新しい図書館員への技術・精神的サポートの強化に努めています。

④図書の配架（絵本、学習参考書、大人の利用者向けの図書）

カレン語、ビルマ語の翻訳シールを貼り付けた日本の絵本を7タイトル、タイの絵本10タイトルを難民キャンプの各図書館に配架しました。また、学校の授業で活用できるような辞書、百科事典、英語学習本などの学習参考書をミャンマー国内から2,835冊購入し、6月までに各図書館へ配架を終えました。本年は新しく保育所からの依頼を受け、保育所向けの教材を購入しました。これら学習参考書以外に、毎月ミャンマー国内から新聞、雑誌、一般教養書、小説などを購入し、各図書館に月約100冊を配架しました。

⑤住民への情報提供活動

本国への帰還に向けた準備の一環として、パソコンと情報掲示板を通して、ミャンマー国内の政治、経済、帰還に関わる情報を住民に提供しています。オフラインのパソコンと図書館前に設置した情報掲示板では、UNHCRから提供されるミャンマー国内や帰還に関する最新情報を掲示しています。2018年は、メラ難民キャンプで延べ1,880人がパソコンを利用しました。

⑥学校向けの移動図書箱活動

メラ難民キャンプ内のすべての学校を対象に、図書館からの移動図書箱活動を実施しています。保育所、小・中・高等学校、障がい児特別学校の教員や学生が、絵本や学習参考書を選定するために図書館を訪れ、学校での利用を目的に希望の本を借りています。また、難民キャンプ内のNGOやコミュニティ組織もこの移動図書箱を活用しています。2018年は合計で、3,600冊以上の本がこの活動によって貸し出されました。

⑧図書館青年ボランティアによる読書推進活動

メラ難民キャンプでは、42人の図書館青年ボランティアが、学校や難民キャンプ内の地区で読書推進活動を実施しています。8月と9月に、人形劇を使ったおはなし会であるキャラバン公演を実施し、2回合計で2,319人の子ども達に参加しました。また、基本的に週末を利用して、難民キャンプ内の地区で、絵本の読み聞かせ活動やゲーム、折り紙などを取り入れた読書クラブを実施しました。2018年は1万7千人以上の子どもたちがこの読書クラブに参加しました。この活動は、子どもたちへの読書推進効果以外に、実施する青年ボランティアにも良い影響を与えています。青年ボランティアからは、読書推進活動を実施するのが楽しい、活動を通してスキルを身に着けることができ嬉しい、自分に自信が持てるようになったといった声が上がっています。

3. 2018年の図書館利用者数

メラ難民キャンプ第3図書館の2018年1月～12月までの利用者数合計は、延べ21,271人となりました。利用者数の詳細は下記の表の通りです。17歳以下の子どもの利用が約65%を占めており、多くの子どもたちが図書館を利用しました。

<メラ難民キャンプ第3図書館の利用者数詳細>

	4歳以下			5-17歳			18-59歳			60歳以上		
	女子	男子	合計	女子	男子	合計	女性	男性	合計	女性	男性	合計
1月	79	82	161	485	412	897	381	363	744	25	20	45
2月	202	148	350	585	513	1,098	367	381	748	30	27	57
3月	96	105	201	364	365	729	315	341	656	28	30	58
4月	105	96	201	244	232	476	243	217	460	23	20	43
5月	127	119	246	560	510	1,070	349	355	704	34	21	55
6月	95	110	205	454	449	903	251	302	553	31	21	52
7月	102	113	215	508	457	965	310	309	619	25	23	48
8月	155	126	281	655	636	1,291	303	319	622	27	24	51
9月	218	202	420	648	656	1,304	287	300	587	25	23	48
10月	98	124	222	448	395	843	229	263	492	28	21	49
11月	96	92	188	410	399	809	166	160	326	20	14	34
12月	59	81	140	339	365	704	126	141	267	20	14	34
合計	1,432	1,398	2,830	5,700	5,389	11,089	3,327	3,451	6,778	316	258	574

4. 利用者からの声

ノー・ゴ・プロ・ムーさん (14 歳、メラ難民キャンプ)



私の名前はノー・ゴ・プロ・ムーです。両親と、2人の兄、3人の姉、2人の妹、弟と一緒に暮らしています。洗濯や料理、妹と弟の面倒を見て、家族の手伝いをしています。

私は学校に行くことが好きで、好きな教科は英語とカレン語です。なぜなら、英語は有名な言語で、もし私が英語を理解できたら、外国の人が何を話しているか分かるからです。カレン語は私の母語なので、習うのが好きです。

図書館には週に3回通っています。どうやって健康や他の人に気を使うか、ということの本から教えてもらいました。本の中では、今手に持っているこの絵本が好きです。この絵本は友情について書かれていて、私に一番大切なものはお金ではなく愛であることを教えてくれました。

私達を助けてくれた日本の皆様に、感謝の気持ちをお伝えしたいです。私は自由に図書館に通い、たくさんの知識を得るチャンスを頂きました。これからも皆様に私達を助けてもらえると、とても嬉しいです。

ソー・エ・トゥさん (50 歳、メラ難民キャンプ)



私の名前はソー・エ・トゥです。7人の子どもがいて、4年制の神学校に現在3年間通っています。時間のある時は本を読み、宣教師として活動をしています。

週に3回図書館に通っていて、宗教に関する本を選び、自分のノートに内容を書き写しています。これらの情報は学校での試験勉強の手助けとなり、また宣教活動をする時に図書館で学んだことを周りの人へ広めることができます。

本を読む前は、私はどのように人前で話せばいいのか分かりませんでした。今はどのような段階を踏むと人に物事が伝わりやすいかを知っています。私は讃美歌や聖歌について書かれている本も好きです。本から歌を知り、図書館に通っていない人達とも一緒に賛美することができるからです。私が本から得た情報を周りの人に共有すると、人々が力を得て、励まされているのを感じます。遠い場所に暮らしていて、図書館に通えない人にも、図書館は影響を与えています。

ご支援者の皆様に感謝の気持ちをお伝えしたいです。皆様の愛と優しさによって、私は情報や習慣、生活、人前で話すことについてなど、たくさんのことを本から知ることができています。

5. 写真報告



ご支援の証として、メラ難民キャンプ第3図書館に掲示されているご芳名



使用絵本：ビッグブックはらぺこあおむし(偕成社)

図書館員による読み聞かせ



メラ難民キャンプ第3図書館 大人の利用者達



学校教員向け研修会



図書館青年ボランティア向け研修会



図書館員向け研修会



12月に行われた年次会議の参加者



図書館への学習参考書の配布



図書館青年ボランティアによるキャラバン公演



図書館青年ボランティアによる読書推進活動



友達と本を選ぶ子どもたち



ご支援いただき、誠にありがとうございました